

## 平成28年度 部局自己評価報告書 (16:教育情報学研究所・教育部)

**Ⅲ 部局別評価指標(第2期中期計画取組分)**

※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

※ 字数の上限:(1)~(2)合わせて7,000字以内

**(1)全学の第2期中期目標・中期計画への貢献及び部局の第2期中期目標・中期計画の達成に向けた特色ある取組等の成果(③)**

**I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置**

**1 教育に関する目標を達成するための措置**

**(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置**

**②-2 大学院教育カリキュラムの再構築**

「教養教育と専門基礎の上に築き上げられる高度な大学院教育にふさわしいカリキュラムを構築する。(No. 3)」

- ・部局独自に作成しているカリキュラムマトリックスと、各授業科目に対して実施している授業評価結果等を用いて、現行カリキュラムの検証を行い、現在・今後のカリキュラムに必要と考えられる新規授業科目を、修了判定に必要な必修科目とは別に自由聴講科目として導入し、試験運用を通してその必要性と教育有効性を検討し、カリキュラムの充実を図った。

**④-1 学生募集力の向上**

「東北大学進学への動機付けを図るため、わかりやすいホームページの作成、説明会、オープンキャンパス、移動講座などの広報活動を展開する。(No. 9)」

- ・留学生向けに、部局のわかりやすい外国語 web ページ作成を進めた。
- ・海外の大学での勤務経験がある教員を中心とし、海外との人的ネットワークを介した留学生リクルートのための広報活動を推進した。

**(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置**

**①-2 学部専門教育・大学院教育の実施体制の整備・充実**

「教員の多様性を確保するため、外国人教員の増員、年齢構成やジェンダー・バランス、実務経験等にも配慮した適切な教員配置を進める。(No. 12)」

- ・部局専任教員の約 11%相当まで外国人教員を増員し、外国人教員による大学院教育体制の充実を図った。
- ・部局専任教員の約 11%相当まで女性教員を増員し、ジェンダー・バランスにも配慮した適切な教員配置を進めた。

(2)「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策及びミッションの再定義(強み・特色・社会的役割)の実現に向けた取組等の成果(24)

①-3 eラーニングによる教育システムの拡充

「効率的・効果的な教育を展開するため、eラーニングによる教育システムの拡充を図る。(No. 13)」

- ・東北大学全体のeラーニングによる教育システムの拡充を支援するためのISTU支援室(川内)とISTU支援室分室(星陵)の運用を継続し、eラーニングコンテンツの開発とその活用を支援した。
- ・教育情報基盤センターとの協力体制により、eラーニングコンテンツの活用のための機能(例えば利用者からの各種問い合わせに対応するヘルプデスク機能等)を果たした。
- ・コンテンツの利用は、年間67万回を超えており年々活用が広まっている(図1)。教育情報基盤センターと教育情報学研究部の教職員だけでは支援が困難なほどにまでISTUの活用が進んでいる。
- ・大学院教育から始まったISTUは現在、学部の専門、また全学教育にもその活用が広まっており、27年度にISTUを利用した学生(学部生)からは、「授業で使ったスライドを見ることができ、整理することができた」、「講義の内容を振り返ることができた」「授業のビデオがあり、授業で聞き逃してしまった部分を聞くことができた」と講義の復習として役立つという意見が聞かれ、さらに「授業以外の時間にも、簡単に復習や見直しをする事ができた」「わざわざキャンパスまで行く必要がない」等のいつでもどこでも活用できることが高評価であった。さらに、「資料が得やすい」「レポート提出がしやすかった」、「課題提出が簡単だった」等の意見に見られるように単に講義そのものだけではなく、レポートやテスト、資料等ダウンロード等ISTUの総合的な機能が学生の学習に役立ったことが推測される。さらに「他の講義でももっとISTUを活用して欲しい」「スマートフォンでの活用がもっとしやすくなるとよい」といった意見も聞かれ、学生はISTUをより活用していきたいという希望をもっていることがうかがわれた。

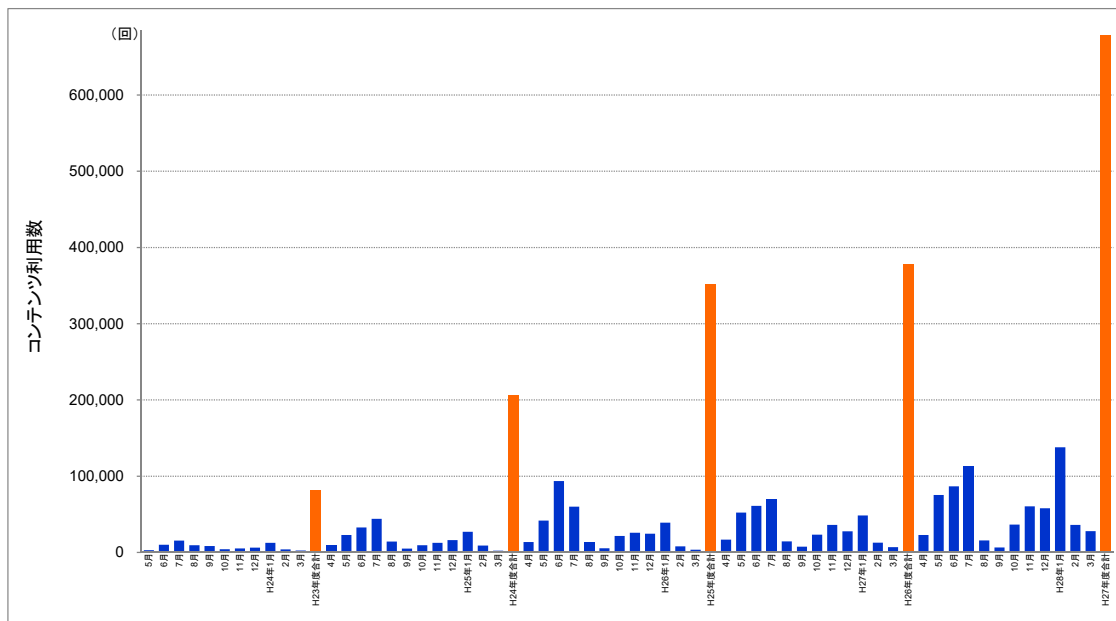


図1 ISTUコンテンツの年間利用数

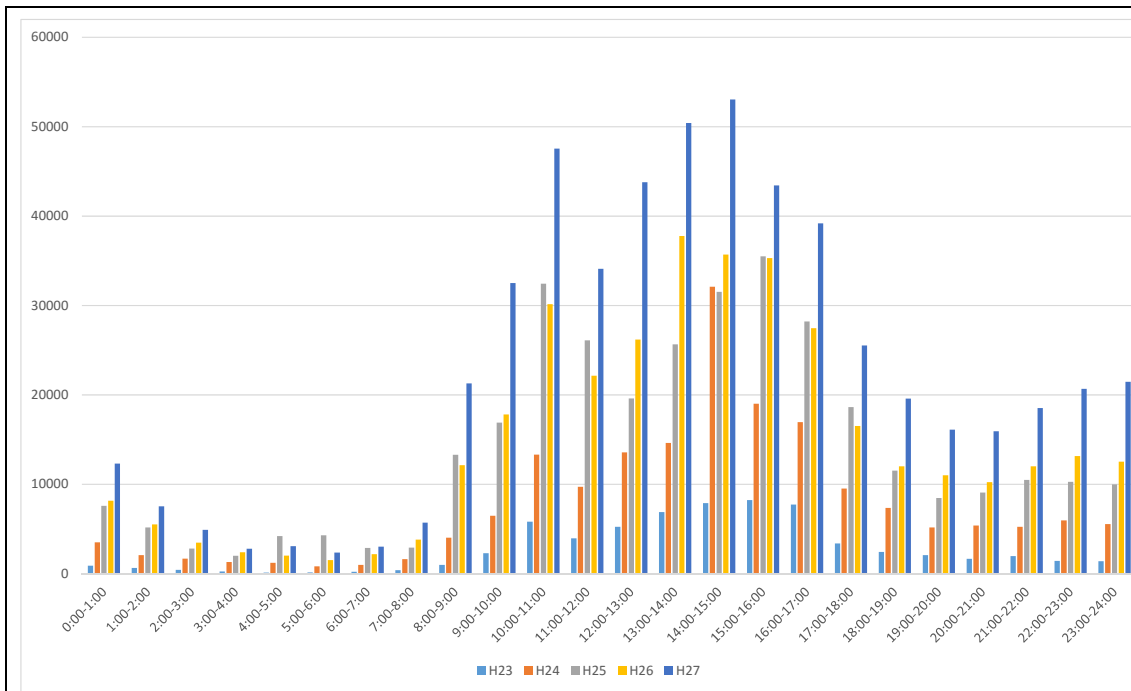


図2 ISTUコンテンツの時間帯別利用状況

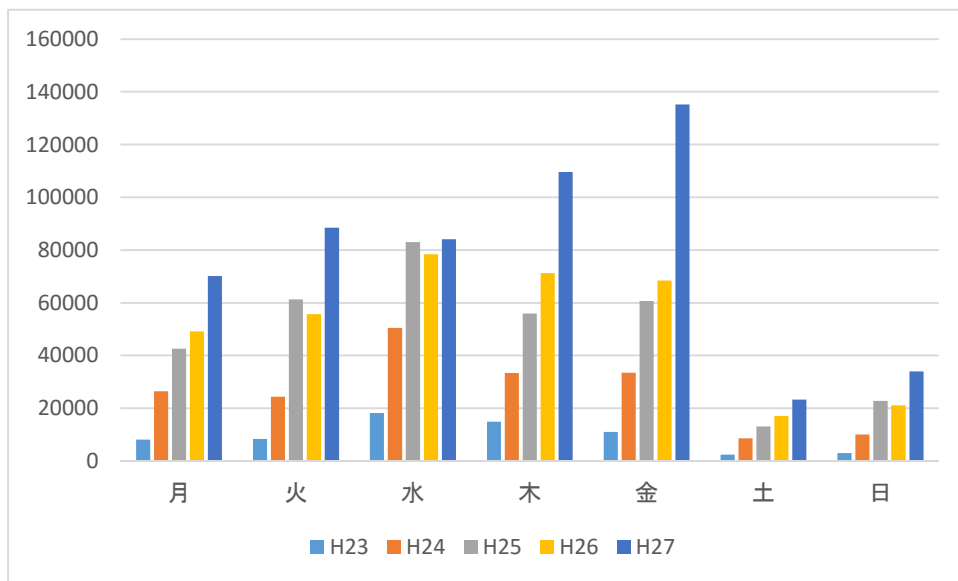
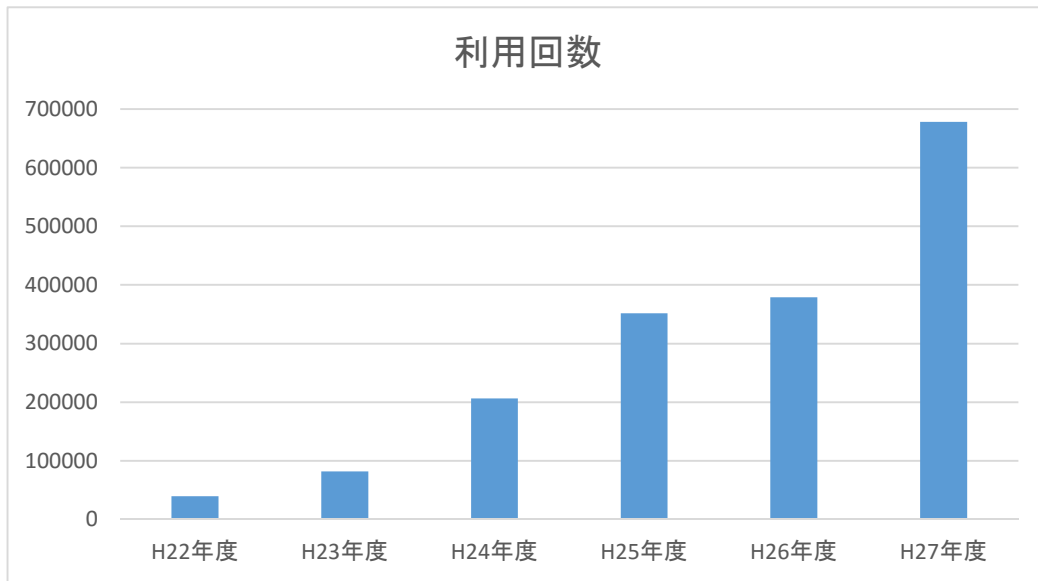


図3 ISTUコンテンツの曜日別利用状況

- ・図2、図3から、土曜日、日曜日や夜間におけるISTUコンテンツが利用されており、学生のいつでもどこでも学べるという要求に答えていること、また授業時間以外にも予習や復習等のための活用が行われていることが推測される。

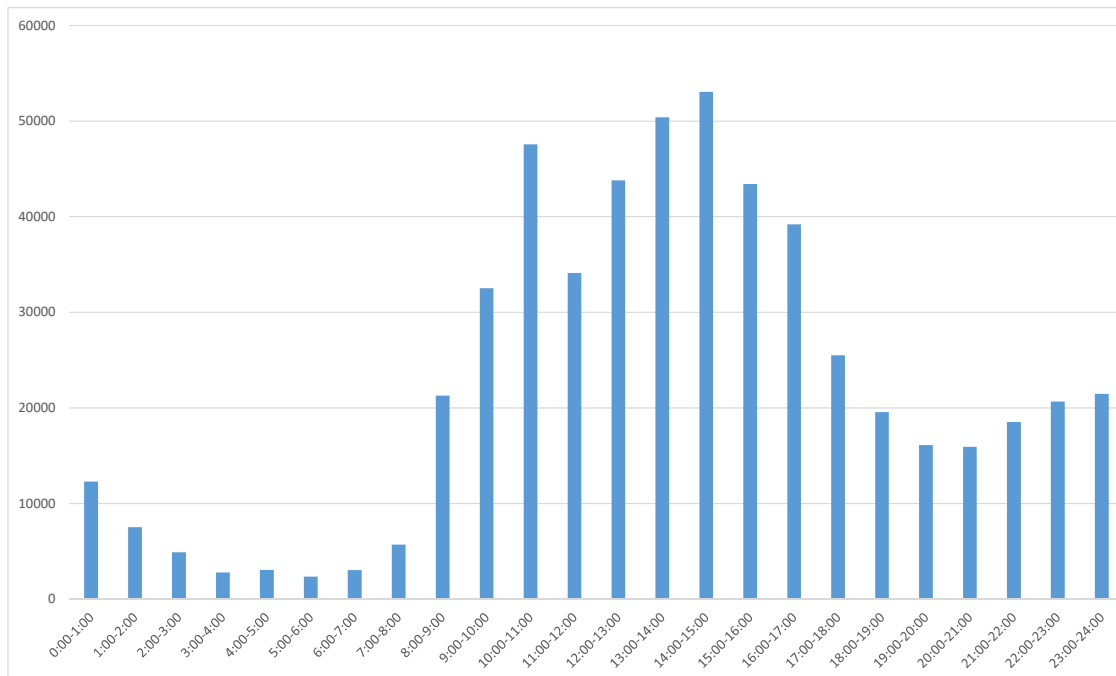
参考

(年度だけのデータ)

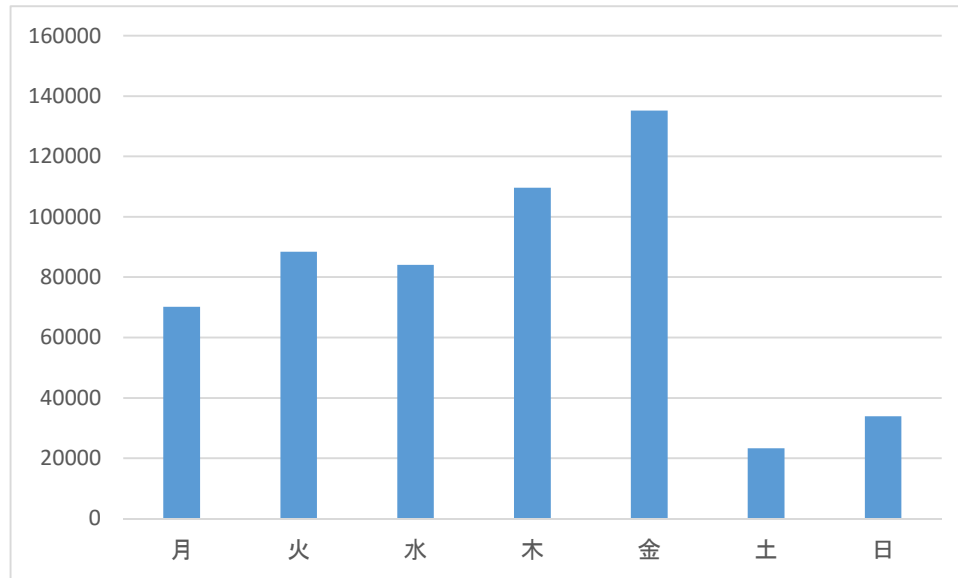


ISTU コンテンツの年間利用数

(2015年だけのデータ)



ISTU コンテンツの時間帯別利用状況



ISTU コンテンツの曜日別利用状況

### (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

#### ①-1 修学支援の充実

##### 「修学支援の取組を充実する。(No. 15)」

- ・教職員等の意見に基づき多様な学生への相談・支援体制等の見直しを必要に応じて行った。具体的には、留学生相談も担当する外国人教員、女子学生からの相談も担当する女性教員を新たに任命した。

### 3 その他の目標を達成するための措置

#### ②-1 産学連携研究の推進

##### 「国際的視点または地域的視点に基づく本学の研究シーズと企業のニーズをマッチングさせた共同研究を推進する。(No. 32)」

- ・地域的視点に基づき、産学連携で東北地方の高齢者の身体活動関連研究を進めている。具体的には、花王株式会社との共同により、被災地の高齢者を対象とした運動継続支援活動を実施した。また、株式会社学研ホールディングスとの共同により、ICT機器を活用した教育現場での教育学習活動支援に関する研究を進めた。更に、セイコーエプソン株式会社との共同により、企業内自律活性化および組織活性化に関する実践的研究を進めている。

### (2) 国際化に関する目標を達成するための措置

#### ①-3 国際的戦略広報の確立

##### 「国際的な知名度を高めるための広報活動を展開する。(No. 36)」

- ・海外向けのホームページの刷新作業を進め、英語および中国語でのホームページを作成した。

#### ①-4 外国人教員の増員

##### 「ワールドクラスの研究者を海外研究機関等から広く確保するために構築する新たな戦略的人事制度における「特別招聘プロフェッサー制度」を活用する等して、本学の強み及び特色を生かした教育・研究に参画する優れた外国人教員の雇用を組織的かつ戦略的に推進し、外国人教員の増員を図る。(No. 36-1-2)」

- ・部局の専任教員比率で約11%まで外国人教員の増員を図った。外国人教員の採用により、特に中国からの留学希望者対応に関し、研究内容や研究テーマに関する相談、留学手続きや日本での学生生活に関する相談、日本語学習方法や日本の文化への適応に関する相談、来日後の大学生活や研究活動に

関するメンタリングといった点で大きな成果をあげている。

## V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

### 情報基盤等の整備・活用に関する目標を達成するための措置

#### ①-1 情報基盤の全学的・体系的整備

「**「東北大学情報化推進アクションプラン」を着実に実行する。(No. 76)**」

- ・次期 ISTU の仕様検討・策定関連委員会に部局教員の約 22%が参加・協力し、東北大学の情報基盤の整備に積極的に貢献した。

「**情報セキュリティ対策の体制の整備を図る。(No. 77)**」

- ・部局内のネットワーク管理係（ネットワーク管理委員）を任命し、部局の情報セキュリティ対策の強化に必要な体制の整備を進めている。委員を中心に、学生向けの情報セキュリティ教育用資料を作成し、それをを用いた学生向け講習を実施した。また、部局 FD の機会や、学生向け講習打合せの際に、部局の教職員への啓発活動も実施した。

## 5 大学支援者等との連携強化に関する目標を達成するための措置

#### ①-2 同窓会の充実

「**「東北大学校友会を中心とした校友へのサービスを通じて大学と卒業生の連携を強化する。(No. 80)**」

- ・部局教員の約 22%が東北大学校友会（菽友会）広報委員会の委員となり、東北大学メールマガジン等の交友へのサービス遂行に大きく貢献している。

### 部局の第 2 期中期目標・中期計画の達成に向けた特色ある取組の進捗・成果

#### ① 部局の教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

1-1 「**教育情報学研究部・教育部における高度な大学院教育の充実を図るため、ISTU等の高度情報型教育システムを活用する**」

- ・部局の専任教員が担当する授業科目の 100%において高度情報型教育システムを活用した教育を実践した。

#### ② 部局の教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

2-2 「**教員の専門能力を向上させる教員研修を充実させる**」

- ・FD 担当教員を任命し、毎月 FD を実施してきた。
- ・部局の助教以上の専任教員の 100%がその FD を受講した。
- ・毎月の FD のテーマ、資料、議論、結論等を、教員がいつでも ICT を利用して参照、振り返りできるように、部局月例 FD 専用のサイトを構築し、提供した。

2-3 「**e ラーニングによる学習システム活用を支援するために、先端教育支援室（仮称）におけるメディア教育支援部門の整備を進める**」

- ・先端教育推進室（現行名称）の「メディア教育支援部門」を改組し、「ICT を活用した遠隔教育支援部門」と「ICT を活用した対面授業支援部門」を設置した。
- ・新規に設置した「ICT を活用した遠隔教育支援部門」と「ICT を活用した対面授業支援部門」のそれぞれの部門を担当する教員を新規に任命した。
- ・「ICT を活用した遠隔教育支援部門」には部門長をおく体制を整備した。さらに、その下に、「ISTU 支援プロジェクト」担当教員と「MOOC 支援プロジェクト」担当教員をおく体制の整備を進めている。
- ・「ICT を活用した対面授業支援部門」には部門長、ならびに「ICT 活用授業評価プロジェクト」担当教員、「デバイス（デジタルペン）活用プロジェクト」担当教員等をおく体制を整備した。

**③ 部局の研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置**

**3-1 「教育と情報に関する基礎的な優れた研究成果を、学術誌、学術書、国際・国内会議等に公表する」**

- ・最近1年間で、学術誌、学術書、国際・国内会議への公表は、論文43件、著書2件、発表・講演42（招待・基調講演2）件、研究会主催12（海外の研究者等との研究会4）件である。部局の専任教員数が9名と極めて少人数であること、人文社会科学系の傾向の強い組織であることを考えると、論文数、発表数とも、きわめて多数であると言える。また、国際会議発表・講演数8件と、研究成果を世界に向けて積極的に発信していること、英語・外国語論文8（査読有8）件と、その発信した成果が国際的にも認められていることがわかる。部局の計画達成に向けた研究の公表が極めて活発に実施されていることがわかる。

**⑤ 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置**

**5-1 「情報技術を活用して産官学連携プログラムの充実を図る」**

- ・先端教育推進室（現行名称）の改組の際に、産学連携プロジェクトを担当するセクションと教員を拡充し、産学連携プログラムの充実を図った。

**⑥ 国際化に関する目標を達成するための措置**

**6-2 「先端教育支援室（仮称）の国際教育支援部門の整備により、部局運営体制の充実を図る」**

- ・先端教育推進室（現行名称）の「国際教育支援部門」を改組し、「国際交流教育部門」を設置した。
- ・「国際交流教育部門」に新規に部門長をおくとともに、その下に「国際共同研究プロジェクト」リーダーと「留学生教育支援プロジェクト」担当教員をおく体制を整備した。
- ・「国際共同研究プロジェクト」リーダーの指揮により、国際共同研究準備作業と、国際シンポジウムを開催（平成27年7月実施）した。

**6-3 「国際的戦略広報を推進するために、情報技術を活用する」**

- ・ICTを活用した国際的戦略広報推進のために部局の外国語Webページの充実を進めている。

**⑦ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置**

**7-1 「業務プロセスを改革する」**

- ・部局内の総務委員会の下に改善効率化委員会を新規に設置し、委員を任命した。
- ・改善効率化委員会で、教員等からの効率化提案書の受付・検討を開始した。